

マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 地方自治体職員が、自治大学校で一年間を過ごす研修。研修期間中の概ね半分は自治大学校の実務に従事、半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することによって、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

生活が大きく変わること、そこからは多様な学びや、感じることもあります。ここでは生活の変化によって感じていることを、徒然に振り返っていきたいと思います。

○生活における変化 ①住居の変化

私は、比較的どこでも寝ることが出来るタイプですので、特に問題はありません。ベッドが違う等ではありますが、部屋には風呂や、トイレがあるということは同じですし、そういう意味では自宅と相違ないです。

○生活における変化 ②居住地の変化

これは、刺激的でとても良いことと感じています。

立川市は観光地や勤務地というよりも、居住地という印象です。店も多く、カテゴリとしては飲食店、日用品店などが多い印象です。

スーパーでは、食料品の産地も違い、関東近郊の地場メーカーの商品も目にすることができます。

○生活における変化 ③一緒に暮らす人の変化

自治大での生活では、一緒に暮らす人が家族から研修生に変わります。様々な経験をされている方がいらっしゃるため、話を聞くととても刺激的です。また、生活を共にするため、研修生同士で強いつながりを持ったネットワークが形成することができます。

○今後について

自治大での生活は、総じて刺激的です。そして、この生活を通して最も感じていることは「環境の大切さ」です。

例えば、筋肉をつけようと自宅で腕立て伏せを頑張るよりも、ジムで効率的なトレーニングを行ったり、もう上がらないバーベルでもトレーナーに励まされ最後の1回を上げたりする方が、筋肉はつくと思います。筋肉をつけるには、この最後の1回が大切だそうです。そして、これは他のことでも同様に「これ以上は無理だ」と思ったときこそ、次のステージに進めるチャンスだと思います。

自治大では、集中できる住環境の中、政策立案等で「これ以上は無理だ」に多く当たることができます。そんな中、研修生同士で励まし合い、講師のアドバイスをもらいながら、研鑽に励むことが可能です。この精神的にも、技術的にも整った環境を、活かしていきたいです。

ここでの生活はとても大切な時間になることを確信しています。少なくとも、あまり経験できることではありません。新しい環境で、様々な価値観に触れ、励まし合い進んでいけることに感謝しながら、頑張りたいと思います。(N. S)